
二万光年の片想い

希菜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二万光年の片想い

【Nコード】

N6875J

【作者名】

希菜

【あらすじ】

広大な世界の中で

私たちが出会うのはなんとという星の巡り合わせでしょうか

スクリーン

肩をならべれば星の大

三百六十度

ふたりだけの夏の夜空

幼い指がさすのは

億万の中の寄り添うふたつ

—

「おおきいほづがぼくのなまえ。」

ちいさいほづがわたしのなまえ。」

「じゃあ、

何百億年も離れない

何百億年も昔から

にいるからね

ずっと一緒

胸の中 星の海で響き続ける君の声
月日は流れても忘れないまま

は 図書館の中で心が躍った

とても大人になった君を見たとき

づいたよ。」

「眼鏡をかけてても気

覚えてる?」

「あの日の星の約束、

抱えていた天文学の本を隠す

恒星のように輝く目を見て 君は

床をみて言った

うつむいて 近い近い

んで見えただけ。」

「あの星はあそこから並

てるんだよ。」

「本当は二万光年も離れ

そして

「。。。。」

にかけていたのに

ずっとずっと追

君という星

たのに

さびしい夜空の煌めきだっ

二つの星

ずっと一緒にいるからね

二つ星

約束の

二万光年も離れたた

二万光年の片想い

片想い

二万光年の

それでも大切な君だから

君を追いかける流れ星になるよ

途中で何度碎け

ても 小さくなって消えてしまいそうでも

6

二万光年を流れるよ

二万光年はまだ遠い

二万光年を消

えずに駆けるよ

君の名前を持つ星を目指す

果てない宇宙の世界の中で

い瞬き続ける

消えそうなくら

一億万のたったのふたつ

寄り添うような二万光年

に届け

君

に届け

叶え

叶え

君

(後書き)

この詩を読んでくださった方も

一億万の星のひとつのようなもの

ですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6875j/>

二万光年の片想い

2010年10月28日08時25分発行